

第46回 東海三県博物館協会研究交流会 開催要項

1 趣旨

博物館が持つ資料や作品は博物館の外にある多様な地域資源とともに、人々の好奇心の深まりや地域社会の中で幅広く活用されるものです。この4月に改正された博物館法の議論の中でも、資料を「守り、受け継ぎ」「わかち合う」ことがこれからの博物館の方向性として改めて示される。また、「博物館資料のデジタル・アーカイブ化」が博物館事業として新たに明示されました。しかしながら、収集したものの管理と整理は、どこの博物館においても問題を抱え苦慮しているのが現状です。

今回の研究交流会では、博物館の社会的存在価値を見据え、博物館が持つ多様な資源についてデジタル技術を生かしつつ、どのようにデータベース化し、それを広く公開・活用していくか、そのあり方や方向性、手立てを考えていくための場としたいと思います。

2 テーマ

「博物館資源のデジタルデータベース化の現状と今後」

3 日時

令和4年12月7日（水） 13:00～16:20

4 会場

セラミックパーク MINO イベントホール（岐阜県多治見市東町4-2-5）

5 定員

50名程度

6 日程

12:30～13:00	受付
13:00～13:10	開会あいさつ
13:10～14:10	講演 講師 金山 喜昭氏（法政大学キャリアデザイン学部 教授） 演題「コレクション管理の考え方と方法」
14:10～14:15	休憩
「博物館資源のデジタルデータベース化の現状と今後」（各県発表）	
14:15～14:45	事例報告1（岐阜県） 「博物館における地域資源データベースの展開」 発表者：可児 光生氏（美濃加茂市民ミュージアム 館長）
14:45～15:15	事例報告2（愛知県） 「コレクションのデータを公開するとどんな良いことがあるのか ー愛知県美術館の事例から」 発表者：副田 一穂氏（愛知県美術館 主任学芸員）
15:15～15:45	事例報告3（三重県） 「三重県総合博物館(MieMu)でのデータベース運用と課題」 発表者：守屋 和幸氏（三重県総合博物館 館長）
15:45～15:50	休憩
15:50～16:20	ディスカッション・閉会

7 情報交換会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今回は行いません。